しが国際協力親善大使レポート

近藤（こんどう）　ゆみ さん

隊次：２０１８年度１次隊

職種：日本語教育

派遣国：ブラジル

プロフィール

滋賀県甲賀市信楽町出身。大学卒業後、メーカーの広報・秘書として 4 年間勤務。大学時代から抱いていた海外で日本語教師をしてみたいという強い思いから、日系社会青年ボランティアに現職（会社に籍を置いて）参加。2018 年 7 月よりブラジルサンパウロ州ピンダモニャンガバ市にて日本語教師として活動中。

ブラジルでの活動・生活について

私の活動するブラジルは、日本の国土の約 23 倍という広大な国です。そんなブラジルと日本にはとても深い繋がりがあります。今から 110 年前に多くの日本人がブラジルに移住し始め、その子孫が今でもブラジルに暮らしています。日本から海外に移住した子孫のことを“日系人”といい、現在ブラジルには約 190 万人の日系人がいます。そのため、ブラジル各地に日系コミュニティがあり、日本語学校も多く存在します。日本語学校というと、外国人が日本語を勉強するための学校というイメージですが、ブラジルの日本語学校の多くが日系人に日本語や日本文化、日本人のルーツがあることを忘れてほしくない等、移住してきた日本人の思いから創設されました。その中の一つが私の活動地であるピンダモニャンガバ日本語学校です。生徒は小学生から 40 代と年代は幅広く、父母に言われて通う生徒や日本語・日本文化に興味がある生徒、日系人やブラジル人、目的も人種も様々です。私はそんな日本語学校で、現地の先生たちと一緒に生徒たちが満足できる日本語学校を目指して、日本語や日本文化を教えています。

日系人が多く住むブラジルでは、日本を感じる場面が多くあります。スーパーに日本食材が売られていたり、焼きそば（ブラジルはソース焼きそばではなく、なぜか餡かけ焼きそば！）を作るお店があったり、日系人会ではカラオケ大会（演歌）や運動会が開催されたり。健康志向が強まっているブラジルでは、健康的とされる日本食ブームで、日本食レストランも多いです。ブラジルへ行くと決まった時は、日本や日本食が恋しくなるだろうなぁと思っていましたが、ここまで日本を感じさせる国が地球の裏側にあるとは思いもしませんでし

た。私たち日本人が知らないところで、実は日本が存在しています。

ブラジルで驚いたこと

ブラジルに来てまだ半年の私は日々新鮮なことばかりです。ブラジルに到着してから色々と気になる・ツッコむことがありすぎて、2 週間で「まぁそういうものか」となってしまうほど。国や人種が違えば文化も違って当たり前。そんな半年の中で一番印象に残っている出来事をご紹介します。

やっと生活に慣れてきたある連休、バスで山を越えて 2 時間ほどで行ける海に行くことにしました。一人だったので寝過ごさないように 2 時間で起きられるようアラームを設定して昼寝。アラームが鳴り、目覚めると外に見える出発地の地名。頭はパニック。外の様子を見ると、大渋滞で 2 時間前の地点からほぼ動いていません。そしてその調子が延々と続き、2 時間で到着するはずが、なんと 13 時間半かかりました。ここまで遅れたことも驚きなのですが、それよりも驚きだったのが、その長時間狭いバスの中で大人しく待つブラジル人の姿です。きっとこれが日本だったら、2 時間後にはきっと遅れていることに苛立つ人たちの文句やイライラムードが充満し、私もとても嫌な気分になっていたと思います。しかし、この時のバスの雰囲気は至って平和。笑い話や昼寝をしてのんびり到着を待つブラジル人を見て、私も仕方ないかと思い、乗り切ることができました。時間を気にしない、誰とでも友達のように話す、目の前の人生を楽しく生きる、そんなブラジルの考え方・文化に助けられた 13 時間半でした。

文化というのは、その国だから成り立つもの。２年間のブラジル生活で、ブラジル文化と日本文化の良いところ・悪いところを存分に肌で感じ、学びたいと思います。

写真１：父の日のイベントで歌の発表

写真２：日本文化の授業「ご当地マンホールについて」

写真３：ブラジルの餡かけ焼そば

写真４：兜の折り紙で作ったブラジル・日本の国旗
（日系人会の記念日に、日本語学校から日本とブラジルの友好の継続を願い
作ったプレゼント）

写真５：文化の日のイベントでの集合写真

しが国際協力親善大使レポート

近藤（こんどう）　ゆみ さん

隊次：２０１８年度１次隊

職種：日本語教育

派遣国：ブラジル

プロフィール

　滋賀県甲賀市出身。大学を卒業した後、民間企業で 4 年間勤務。学生時代から抱いていた海外で日本語教師をしてみたいという強い思いから、会社を休職し、日系社会青年ボランティアに参加。2018 年 7 月よりブラジル連邦共和国サンパウロ州ピンダモニャンガバ市にて日本語教師として活動中！

ブラジルでなにをしているの？

　みなさんは、「日系人」「日系社会」という言葉を知っていますか？

…今から 111 年前。

日本は日露戦争後の影響で不景気になり、仕事がなく、農村も貧困化していました。そこで日本政府が国民にブラジルや南米への移住を勧めたため、多くの日本人が仕事や富を求めてブラジルへ移住しました。このようにブラジルに移住した日本人や、その方たちの子孫が「日系人」と呼ばれています。現在、ブラジルには約 200 万人もの日系人が生活されていて、ブラジルは世界で一番多くの日系人が生活している国なんです。

そんな日系人たちが、異国のブラジルでも日本文化を守り、日本人で協力して生きていくために、日系人のコミュニティ「日系社会」をつくりました。そして、多くの日系社会には日本語学校があります。私は、そんな日系社会にある日本語学校で、日本語や日本文化を教えています。生徒は日系人だけでなく、ブラジル人もたくさんいます。今、ブラジルでは日本のアニメやマンガ、日本食などが大人気です！日本語を勉強したい！日本へ行きたい！という人がブラジルにはたくさんいるんですよ。みんな、日本が大好きです。日本人の一人として、とても誇らしく、嬉しいです。

ブラジルの想い、日本に届け！！

　私がブラジルにいて感じるのは、日系人の方達は日本人のルーツを持っていることを誇りに思っていて、「日本」を想う気持ちがとても強いということです。次のオリンピック・

パラリンピックが日本で行われることを喜び、応援してくれています。しかし、一方で日本人の多くは日系人のことを知りません。こんなに日本を想っている人たちがいるのに、片想いのままにはしたくない！そんな思いから、あるプロジェクトを実行しました。
それは、今日本で大人気の東京五輪パラリンピック応援ソング「パプリカ」をブラジル各地の日系社会で踊って、日本にエールを届けよう！というものです。多くの方の協力を得ながら動画を作成して公開したところ、なんと日本やブラジルから数え切れないほどの感動や喜びの声が届きました！これが日本とブラジルの架け橋になることを信じて、これからも活動を続けます！
みなさんもぜひ、ブラジルのことを想像しながら観てくださいね！
動画は YouTube で検索！：
「パプリカ」～ブラジルから日本へ～（Papurika do Brasil para o Japão）

写真１：書道の授業で新元号「令和」

写真２：七夕での生徒の願い

写真３：イベントで茶道を披露

写真４：手作りのキャラ帽子でハイチーズ